

おもしろ言葉～こどものちから～

臨床文藝医学会

2020年9月12日朝日新聞に子どもの言い間違いが「珍プレー」として紹介されていた。

確かに子どもといると、思わずほっこりする言い間違いに出会うことがある。

もちろん、それは言い間違いなのだが、そこに我々にはできない言葉を組み替える楽しさがある。

子どもはあたかも、毎日、毎瞬間、自分の能力の限界に挑戦しているかのように見える。

つかまり立ちを始めた。大人なら安定性をみて物に掴むが、子どもはそんな計算はしない。掴めるものが目の前にあればとにかくつかまって立つ試みをし、結果こけて頭を打つ。

ようやく歩き出した。おぼつかない足取りで。ゆっくりやればいいものを、先を急ぐかのように歩こうとして、こける。分かっているもまたこける。多くは泣いて、数少ないが時に成功して破顔する。

失敗を考えずとにかく前のめりにチャレンジする。

私にもそんな時期があったろうか。今は失敗、成功の計算に長けた賢い大人になってしまった。

さて、ここでは子どもの言い間違いを、前のめりなチャレンジのポジティブな産物として、皆で共有したい。

それは紛れもなく子どもの力だ。
(2020/9/28)

なんでか～い

我が家にも教育方針というものが、ちゃんとある。

その到達目標の最上位は、適切にツッコミを入れること、だ。

これは譲れない。

笑いは精神の一つの運動だ。

ツッコミもまた笑いの契機となる精神運動の一つである。

ツッコミができれば、寒い状況も笑いになる。辛い現実も笑い飛ばすことができる。

具体的な教育内容は、僕が普段し

てる通りに、娘にも妻にもツッコミ続けるだけのことなのだが。そして、機は熟した。2歳半である。

「～か～い」とツッコむようになった。

幼稚園のバスが少しでも遅れれば「来ないんか～い」幼稚園で先生が「～しようね」とみんなに言えば、娘だけが「～するんか～い」などとツッコミを入れるようになった。

先生には申し訳なく思っている。少々薬が効きすぎたと思わないでもない。

親バカな私はこの達成だけでもビール数杯の肴にしてしまう。

その表現形の一つが、「なんでか～い」である。

「なんでやねん」とするところを「なんでか～い」と言う。

この表現は聞いたことがない。

「なんでか～いって、なんやねん！」とすかさずツッコミたくなる。

ともあれ、タイミングは悪く無い。妻には申し訳ないが、九州出身の

妻よりはるかにいい。

ツッコミはタイミングだ。

ピンポンと同様来た球を反射的に返す。考える暇などない。

この子は東京生まれの東京育ちである（2歳まで）。

そこでは、私がツッコミを入れると人々は喜び、私がボケても誰もツッコまなかった。

なんとひどい土地柄だと思った。

東京の連中は、持ちつ持たれつとか、give アンド take とか、taka アンド toshi とか、そういう表現を知らないらしい。

薄情にもほどがある。薄情な大都会人、ああ東京砂漠。

しかし、聞いてみると、ツッコミ方とそのタイミングが分からないらしい。

なんと・・・

卓球で打ち返すタイミングが分からないと。

球がそこに来てるのに、手を出せばしまいなのに、そのタイミングが分からないと・・・

うむ、これは重症だ。ツッコミ欠乏症とでも言っておこうか。

いかん、このままでは娘が精神的

ピンポンもできない分からんちん
になってしまう。

奮起した私は教育目標の最上位に
それを挙げたのである。

4歳半になった今でも「なんでか
〜い」とツッコむのだが、最近
は吉本新喜劇を見るようになり少し
進化した。

末成由美が舞台に現れるや「ごめ
んやしておくれやしてごめんやっ
しゃー」と挨拶をかまし、直後に
共演者がこける。

あの定番のシーンでは、4歳の娘
も遅れじと「ズコー」っとやる。
したがって、今は何かにツッコム
とき、「なんでか〜い、ズコー」
とやる。

(2020/9/28 素寒)

風が吹けば風邪を引く

娘@3歳7ヶ月

父：明日は明日の風がふく

娘：明日は明日に風ひくの？そし
たらお家にいた方がいいんじゃない
の？今日は？

父：今日は今日の風がふく

娘：そしたらお家にいた方がいい
んじゃない

(2020/10/4 素寒)

ひっくり回り

娘@4歳10ヶ月

公園の鉄棒にて

娘：パパはこれできる？ひっくり
回り。

父：ん、前回りのこと？

娘：ひっくり回りだよ。日本語で
はそう言うんだよ。

(2020/10/10 素寒)

1歳の世界

言い間違いではないのだが、息子
@1歳の言語をまとめておく。

息子の世界はざっくりと以下の5
つで構成されている。

ママ：母親への呼びかけにとどま
らず、好きな人によびかけにも使
われる。出会って3分間でも、好
きになれば「ママ〜」と追いか
ける。色々困る。

ん〜ん〜：現状に満足できないと
きに発する。トランポリンでジャ
ンプ遊びをしてほしいとき、寝る
前にグミを食べたい時・ピルクル
を飲みたい時などに発する。

ちっ：熱いものを指差しながら、とりあえず言う。とりあえず言いたいだけやろ、とツッコミを入れてたくなるほど、必ず言う。

ちーち：ちんちん。風呂上がりに触りながら「ちーち」と嬉しそうに言う。寝る時に父のヘソを触りながら「ちーち」と言うのは不可解。父は偉大である。

ない：1歳半頃に獲得。牛乳パックやコップが空ならば、「ない！」と勢いよくやる。

記録を参照し、まもなく5歳を迎える娘の歴史と比較してみよう。

娘は1歳4ヶ月頃には「落ちた」という動詞を覚えている。物をわざと落とすには「落ちた」と発話し、楽しんでいた。

同じ頃、どこかに膝をぶつけたとき「ここ、ここ、ここ、が、ここに、がちーってした」と表現していた。動詞を使うどころか、主語と述語を組み立てている。

これは今1歳8ヶ月になった息子にもできない芸当である。

一般に、女兒より男児の方が、言

語習得が早いと言うが、我が家にもその傾向はみられる。

一方で、「無い」という形容詞を覚えたのは息子と同じく1歳半頃だ。

興味深い差異だ。

「無い」と言えば「死」についての娘との対話もいつか書こう。

娘が初めて死について自ら言及したのは、私の記録によると4歳になりたての頃だ。

ピアジェは7歳以降を具体的操作期とし、それまでを前操作期とした。

具体的操作期では言葉を巧みに利用できるようになり、抽象性が増す。目の前に無いことも、言葉で持って考えられるという。

これから娘は死をどうするのだろうか。

memento mori

(2020/10/11 素寒)

うまいなぎ

娘は鯛が好きで、1歳の頃からカブト焼きを食べていた。

もちろん食べさせた結果でもある。

鯛の骨は硬いから子供には危険だから食べさせないという家庭も多

かろう。

しかし鯛の頭は安く美味しい。

2つで100円とか150円とか。

魚でも肉でもそうだが、骨の周りが一番うまい。

娘は特に目が大好きで、ペロリと食べて白目をスイカのタネのごとくペッとやる。

4歳になると鯛の刺身を好んで食べるようになり、ほとんど毎日のように食っていた。

妻と鮮魚コーナーで刺身を物色しながら「今日は白身にするか」と言いながら鯛を選んだのだろう。

そしてそれを食って、たまらなくうまかった。かくして、娘の脳髄で「シロミ＝鯛の刺身」の等式が完成した、に違いない。

スーパーに行けば「今日もシロミ食べたい」と言って聞かない。

シロミ＝鯛の独占市場である。

ところが、である。

それから数ヶ月後、スーパーでたまたま太刀魚の刺身が安くなっており、太刀魚に目がない私はすかさず購入した。

娘にとっては未知の白身であるが、

娘は大いに舌鼓を打った。

食べた瞬間、「うま〜い」と。

そのあとも、全て食べながら「うまい！」とうなっていた。

その夜、布団で寝転びながら、

「あのうなぎみたいなのを、また食べたい」と言った。

はて、うなぎは食ったことが無い。

太刀魚のことか。

うまい→うまぎ→うなぎ

なるほど。

美味なるシニフィエと、うなぎというシニフィアンが新たに接続した。

(2020/10/20 素寒)

野菜、トマト、ウインナー

着替えの時、3歳の娘は時々私とどちらが早く着替えられるか勝手に勝負を始める。だいたい私のほうが早く着替え終わるのだが。

父：パパの勝ちだね。

娘：ちがうでしょ、パパは野菜でしょ！めいちゃんがウインナー、ママはトマト、ももかちゃん（0歳次女）は野菜。

(2020/10/26 池のほとりで)

Farce

寝床にて、4歳娘と

娘：ももちゃん（娘）はパパの宝物なの？

父：そうよ、ももちゃんはパパの宝物よ。ももちゃんはパパとママの大切な宝物よ。

娘：ももちゃんはパパの宝物なの！

父：ママの宝物じゃないの？

娘：うん、パパの宝物なの。

母：ももちゃんの宝物はなに？

娘：ももちゃんの宝物はママだよ

父：パパは？

娘：ももちゃんの宝物はママなの！

言い間違いではないが、示唆に富むため記録しておく

(2020/11/17 素寒)

くじゃく

ユキヤナギ、モクレンが咲き始めた春近い夕暮れ

父、軽く酌酏、ベランダに向かって陽気に歌唱

母「苦情がくるよ」

父、めげずに歌唱

5歳娘「パパ、くじゃくがくるよ」

(2020/03/15 素寒)

高い

3歳の娘と浴室で。

娘が妻のボディークリームを使い始めた。

私「ママ、高いから怒っちゃうかも」

娘「高い？」と聞いて娘のミニオンの黄色いボディークリームと妻のボディークリームを並べて背丈を比べてみせた。

私「そうだね、ママの方がちょっと高いかもね」

(2021/03/22)

はんのう

5歳の娘と

父「ちょっと体がかゆいな、花粉症かな」

母「ももちゃんもかゆいみたい、花粉症かな」

娘「花粉症はなんで起こるの？」

父「ん、花粉症な・・・体が反応してしまうねん」

娘「はんのうってなに？」

父「ん・・・、体が気にしちゃうってことかな」

娘「パパは気にしての？」

父「ん、パパは気にしてないんやけどな。パパの体が気にしちゃうんかな・・・」

(2021/04/17 素寒)

じゅんじゅんで

2歳3ヶ月男児のこと

最近、何かにつけて「じゅんじゅんで」と前置きする。行為の前に発せられる。その意味するところは、「自分で」である。

何かを食べるときも、コップに牛乳を注ぐのも自分でやろうとしなければ気が済まない。結果、床が牛乳まみれになる。風呂掃除のときも、すかさずやってきて、じゅんじゅんで、とやるのだから閉口する。

その行為が自分で完遂できるか、という見立てはまるでない。とにかく、自分が関わる行為は、じゅんじゅんでやりたい。

誰でもなく、<わたし>がしたい。

時を同じくして、正確には、それに数ヶ月先行して「見て」という要求が頻用されるようになった。

最近では、帰宅すると、まず「見て」と発語され、手をとられて舞

台に連れて行かれる。見て、と言われるから見る。見ているその最中にも、重ねるように「見て」と要求される。

見られている以上に苛烈に、とにかく見られることを欲している。

そこから結論されるのは、<何かしていること>を見て欲しい、のではなく、何かしていることを<見て欲しい>。目的は見られる、という他者のまなざし。<他者>にみられたい。この他者は必ずしも親である必要はないようだ。しかし、全くの他人ではいけない。親しいと感ぜられる他者。他者がある程度、親しくなれば、彼は其の者の手をとって、「見て」とやる。

これら「じゅんじゅんで」と「見て」をまとめると、

彼は<わたし>がしたくて、それを<他者>に見られたい。

なるほど、2歳2語文はその通りだろうとさされる。彼は2歳びったりでは2語文はほとんど使わなかった。しかし、2ヶ月ほど経ると、いつのまにか2語文を使

用するようになっていた。

2 語文では主語がたつ。

「ママいない」といった具合に主語と述語が構成される。「にゆうにゆう（牛乳）飲む」のように述部のみのものである。

しかし、より革命的なのは主語が据えられることだと思う。＜わたし＞が・・・

「自分」という言葉の面白さについて聞いたことがある。自ら分ける/分かる、自ずと分ける/分かる。自分という表現には、自と他の区別が含まれているようだ。

「じゅんじゅんで（自分で）」という要求には、まず自分と他者が区別されなければならない。誰かに「見て」と要求する際にも、自他の区別が前提されている。

言葉の獲得について、チョムスキーは生成文法を唱えた。経験的な言語への曝露以上に、そもそも生得的に文法を理解する能力がある。なるほど、人間の CPU には言語に関わる根本的な能力が含まれているのであろう。動物と人間を弁別するところの、言語使用能力だもの。

それ以上に、彼の「見られた

い」という欲望を駆動させるものは何か。文法以前にある、あるいは文法と同時に立ち上がる「他者のまなざしへの欲望」はどう説明したらいいのか。

私は何も抽象物を据えたいのではない。

生活実感として、私と妻は彼の「じゅんじゅんで」という欲望と、「見て」という欲望に圧倒されている。

素寒

おいでごらん

3 歳の娘

布団で滑り台を作ったらしい。

「パパ、おいでごらん」

(2021/04/25)

ころな

5 歳娘と

娘「パパ、もうレストラン行けないからね」

父「どうして？」

娘「緊急事態宣言だからよ」

父「緊急事態宣言ってなに？」

娘「幼稚園の先生が言ってたんだよ」

父「緊急ってなに？」

娘「コロナが大変なんだよ。パパ、病院で働いてるんだから知ってるでしょ」

「コロナってなに？」

父「コロナはビールよ」

娘「コロナはばいきんでしょ！」

「コロナはどうやったらやっつけられるの？水？」

父「ビールでやっつけるよ」

娘「なんでビールなの、もー」

父「ビールはアルコールよ。アルコールでやっつけるよ」

娘「ふーん」

(2021/04/29 素寒)

とーろく

今回はおもしろい言葉ではなく、おもしろくない言葉

「とーろく、とーろく、とーろく
♪」

5歳、2歳の子供たちが嬉しそうにと歌っていた

耳から離れぬりフレイン

その意味は「チャンネル登録」と

のこと

YouTubeを見てみると、Hikakinという Youtuber がなんとも言えぬ顔で視聴者にチャンネル登録を促していた

子供たちにキャッチーな歌を用意してまで登録数を稼いでいるのか・・・

なるほど、彼の番組は一見して子供向けと思われる企画が多そうだが彼のチャンネル登録者の相当な割合で未就学児が含まれているのではなかろうか

スマホ子育てに一役買っているに違いない

それで彼は巨万の富を得ている

スマホ子育てを反省するキーワードを2つ挙げておく

一つは関心経済 1)

コンテンツの情報の正確性や質を高めることではなく、閲覧数を稼ぐためあの手この手で利用者の感情を刺激してクリックさせる。

このような、関心の獲得が経済的価値をもつ状況を、関心経済（アテンション・エコノミー）などというようだ

もう一つは、自動再生機能 2)
この機能のため、YouTube をみて
いると、自分で選択したのではない
情報に満足する状態に慣れてしま
まい、ネット中毒のリスクがある
という

あな悲し

2 歳の息子の数少ない豊かなボキ
ャブラリーに、Youtuber の営利の
ための語彙が侵入するとは

それにしても、Youtuber の度し難
い貪欲さ

なんとも憐れな

では、見なければよいだけだろう
に、

と彼は臆面もなく言うだろう

関心が生じているのはそちらであ
って、私ではない、と

正しい

したがって、私は見ない

万が一ご覧になる場合、彼が登録
を促すあのえもいえぬ表情には催
吐性があるためご注意ください

子供というフィールドで何が起きて

いるのかを把握するのは難しい
フロイトやピアジェの観察もその
フィールドワークと言える
親業でもそのフィールドを垣間見
る可能性があるにはある。

YouTube 利用に対して注意喚起す
る臨床心理士の言葉を紹介してお
く 3)

ちなみに、読者のプレイセラピスト
の方々は現代の子どものカルチャー
には敏感だろうか。いまや幼稚園児
が YouTube やニコニコ動画を垂れ流
しのように見ている時代である。保
護者も YouTube やニコニコ動画を
見せることに抵抗がない場合が多い。
ご存知だろうか。小学生の多くが日
曜朝の 30 分の子ども番組を見続け
ることができないことを。3 分～5 分
程度の動画を次々にザッピングして
いく習慣を身に着けた子どもにとっ
て 30 分は長すぎて集中力が続か
ないであろう。ご存知だろうか。一
部のユーチューバーたちは、小学生
は知らなくても良いような、悪質
な情報や知識を伝え、それが元にな
ってトラブルが起こっていることを。

そんなユーチューバーにもものすごく入れ込み、夢中になっていることを。ご存知だろうか。小学低学年の子どもたちが普通に大人向けのアダルト動画や、死体を写したグロ動画や、悲惨なエレベーター事故動画を何度も繰り返し見ていることを・・・

参考文献

- 1) 山本龍彦「ネット時代の報道倫理、確立急げ」、朝日新聞 2021 年 5 月 18 日、朝刊 無料電子版 (<https://www.asahi.com/articles/DA3S14907336.html>)
- 2) ドミニク・チェン「わかりあえなさと共に」、朝日新聞 2021 年 5 月 14 日、朝刊
- 3) 丹明彦. プレイセラピー入門. 初版. 東京都：遠見書房；2019. 20 (2021/05/20 素寒)

ばばたんに言うの？

今回は funny ではなく、interesting であり thrilling でもある言葉

2 歳 4 ヶ月の息子、5 歳の娘と早めの夕食を終え、まだ日が暮れる前にスーパーに買い物にでかけた。

今回始めて、子供を乗せないシンプルな買い物カートを選んだ。

カートを押しながら買い物をしている横を子供達はキャッキヤと踊りながら、歌いがながらついてくる。

とっていたら、息子がいない。ざっと、周囲を見渡してもいない。その間、おそらく 1 分もないと思うのだが、とにかくいない。

娘と名前を呼びながらスーパー中を買い物途中のカートを押しながら足早に探し回った。

もし外に行っていたらと、焦燥感にかられながら、娘と名前を呼んでいた。

肉売り場にもいない、おやつ売り場もない。

これはいけない。

ひとまず、サービスカウンターに相談しようとかうと、そこに女性に抱えられた息子がいた。

特に泣くでもなく平然としている。その女性は親切にも息子がスーパーを出て一人でしばらく歩いているのを不審に思い、抱えて連れて来てくれたのである。

もし何かがあれば、立ち上がって

いたかもしれない別の世界線が、瞬時に脳裏によぎった。これはどうしようもなく私に非がある。なんとという不注意。とにかく無事であることに安堵した。息子に詫び、女性に深謝し、辞去した。

その後、買い物の途中、娘はしきりに「危なかった～～」と繰り返していた。買い物を終えて、いよいよ帰るといふときに、娘が唐突に「ばばたんに言うの?」と聞いた。同様のことを考えていた私は驚いた。

説明を加えると、まず、いま我が家には母親（私にとっての妻）がいない。3週間前に生まれた娘（この子たちにとっては妹）が、発熱して入院することとなり、母親も付き添いで入院している。従って、妻の母がピンチヒッターとして遠路はるばる来てくれている。

話を戻して、あの問いである。私はちょうど、「もし、今のことを義理の母（ばばたん）に言うときと相当心配するだろうな」と考えながら帰途に着こうとしていた。不意をつかれた私は戸惑った。私は娘に心持ちを見透かされたような気持ちにもなった。「ん～どっちでもいいんじゃないのかな」と誤魔化した。かわいそうに、娘の問いは答えられることなく棚上げされてしまった。

スーパーから5分のところにある我が家まで帰る途中、娘はもう一度、同様の問いをした。私は「言いたかったら、言ったらいいと思うよ」と。娘の問いは虚しくも再び棚上げされた。

マンションの玄関に着いて、娘はいつになく部屋番号を間違えて押してしまった。その間違えたことを私が指摘すると、顔に不安がたちこめ、指を咥える退行が始まった。エレベーターで移動しながらも不

安気に、しきりに指を咥えている。
4本の指を全て口に入れ込んでい
る。

私は間違えたことは気にしなくて
いいよ、と繰り返した。

しかし、指しゃぶりは収まらな
かった。

私は娘の指しゃぶりはこれまでに
見たことがなかった。

よほど大きな不安がこの子に今、
あるのだろうか。

ここまできてようやく、娘が切実
に問いかけていたあの問いを棚上
げしていたことに気がついた。

おそらくは、娘にとって、弟が
いなくなるかもしれないというの
は恐怖体験だったのだろう。

当然である。

買い物が続けながら、「危なかつ
た～」と連呼していた。

そのペースでいけば、当然、彼女
の心は家でも連呼することとなる。
しかし、ばばたんは、この事件を
知らない。

それを、言うのか、言わないのか。
言うのであれば、誰が言うのか、
私は言い出しにくい。

という問いがが帰る間際の娘に生
じた。

私が言うべきかどうか打算したの
とはおそらく別の風景から同様の
問いを持っていた。

われわれ大人は、と一般化するの
が適切か不明だが、

少なくとも私はこのレベルの嘘
(大人風に誤魔化して言えば、情
報の制限)は常日頃からなんの躊
躇もなくしているのだろう。

その後、家に着いた時には19時を
過ぎていた。

風呂にも入っていないければ、明日
の幼稚園の準備もしていない。

娘の指しゃぶりは風呂の中でも続
いた。

私は娘に「お風呂をあがったら、
ばばたんにちゃんと言おうね。パ
パが言うからね」と告げた。

それでも娘の表情は硬かった。

これは体を動かさなければと私は
直観した。

入浴後、ばばたと出来事を共有
し、娘も「ほんとに危なかった～」
と言った。

すでに寝る時間を過ぎているが、
 どすこい（すもう遊び）と、ダンスをしてから寝た。
 どすこいの時には、娘はいつもの娘になっていた。

反省することの非常に多い買い物であった。

あの時、娘は何を思って私に問いを発したのだろうか。

(2021/05/30 素寒居士)

おいしみがたまる

5歳娘

朝食後、幼稚園にでかける前のこと

娘「ねえ、パパ、梅の実食べてみようよ」

父「うーん、ちょっと早いんじゃないかなあ、砂糖もまだ溶けきってないし」

娘「え～食べてみようよ」

父「じゃあ、幼稚園から帰ってきたらちょっと食べてみようか」

娘「わ～、おいしみがたまる～～」

(2021/06/01 素寒居士)

こわいの

今回は interesting な言葉。

妹が出生する前後から2歳3ヶ月の息子に、例によって赤ちゃん返りがみられ始めた。

妹が家にやってきて以来、妹は母親の乳を吸いながら眠っている。

その妹と母親の間が、彼にとって意味のある空間として立ち上がってくる。

彼はしきりと母親にすがって、その間に入りたいと泣く。

こわいの、こわいの。

母親が出産のために入院している間、彼は姉と私の間に分け入ってきた。

それに対して姉はもちろん抵抗した。

姉と言えどまだ5歳なのだ。

夜の闇のなか、私の横は簡単に明け渡し難い。

しかし、やがて弟が泣いて怯える様を見て、間という特殊な空間を譲った。

母親がまだ生まれて1週間の妹を連れて帰ってくると、今度は妹と

母親の間が彼にとって切実な意味を帯びる。

たとえ生後数週間のかよわい体であることは、彼にとって意味をなさない。

かの特殊空間を求めて彼は叫び求める。

その時、私はふいに「あ、痛い！」と叫んでみる。

やはり息子は「どうしたの？」と応じた。

私はこれまでも観察から、彼が甘えて泣いている時に、誰かがたまたま「痛い」や「うわ」などの言葉を発すると、すぐさま「どしたの？」とやってくることを見知っていた。

今まで泣いていたのが嘘であったかのような表情をしていた。

なるほど、彼の表現としての涕泣にはいくつかの意味があるのだろう。

身体的にないし精神的に強烈な痛みが彼を襲った時、彼はその時何をしても泣くだろう。世界が崩壊しつつあるように感じられているのかもしれない。

しかし、痛みの程度がさほどでもないとき、例えば甘えから泣く様な時、彼の精神にはまだ遊びがあり、容易に切り替えが生じうる。私はその観察からの仮説を就寝時に彼がかの特殊空間を希求して泣くときに活用した。

彼は私が「痛い」と叫ぶと、すかさず「どうしたの」とやってきた。姉もそばにいる。

私は「ヨシヨシして」とリクエストする。

すると彼は「ヨシヨシ」としながら手できすっている。

私はさらに「大丈夫？ありがとうございますって言って」とリクエストする。すると彼は、その通りに言う。

そこで姉も私も笑う。

「なんでありがとうやねん」と。

すると、つられて彼も笑う。

しかし、すぐにまた彼はかの特殊空間を求めて泣く。

そしてまた私が「痛い」と叫ぶ、笑う。

繰り返しているうちに、彼は眠りについた。

お粗末なテクニックだと思う。

嵐が去るのをただ待つこともできたのかもしれないし、その方が良かったのかもしれない。

しかし、私はその夜、彼の中に生じたある種の刃を無力化し、私たちは穏やかに眠ることができた。

われわれの会誌「臨床文藝」創刊号がまもなく発刊される。

主に私はケアについて論じ、LINE座談会でもケアが話題にあがった。急性期においては、あえてまなざしを注がないことが保護的になることも論じられた。

相手の内なる刃を見て見ぬ振りをする。もしくは、ずらす。

子育てをしているときにも、子のうちに刃を見ることがあり、記録しておく。

追記)

発達障害の外来で心理士がオペラント条件付けの「消去」という対応法を紹介していた。

例えば、子供がお菓子売り場でお菓子を買ってくれないことにかんしゃくを起こしてその場で手足をばたばたとさせてしまう状況を考えてみる。

この時、かんしゃくに耐えかねて親がお菓子を買ってあげると、かんしゃくという行動の正の強化となる。今後同様の状況でかんしゃくを起こしやすくなる。

逆にかんしゃくに対して、「そんなわがままする子は今日はゲームなしだからね」とすれば、負の弱化となる。

ところで、そもそも相手にしないというのが消去。見て見ぬ振りをするといわけである。

私の今回の対応は、単に見ぬ振りをしたのではなく、他の感情を喚起させるよう、他の現象を出来させた。消去とも少し異なるテクニックのようである。

(2021/06/04 素寒居士)

エピソードは随時募集しております。応募は下記のメールアドレスまでお願いいたします。

rinshoubungeiigakukai@gmail.com